

2 サポーター支援チーム

脳活性化教室を実施するサポーターが、認知症予防活動のための知識と技術を高めながら、その活動を円滑に継続実施していくことができるよう支援するためにサポーター支援チームを設置した。

【構成員】

篠田 美紀	臨床心理士	大阪市立大学大学院	生活科学研究科総合福祉・心理臨床科学講座	准教授
田村 雅幸	心理セラピスト	精神保健福祉総合研究所		代表
竹田 薫	健康運動指導士	大阪体育大学		非常勤講師
楠元 佐知子	音楽療法指導員			
武縄 睦実	言語聴覚士	S Tプランニング		代表

区役所保健師

【内 容】

◎サポーター支援チーム会議 平成 24 年度 5 回

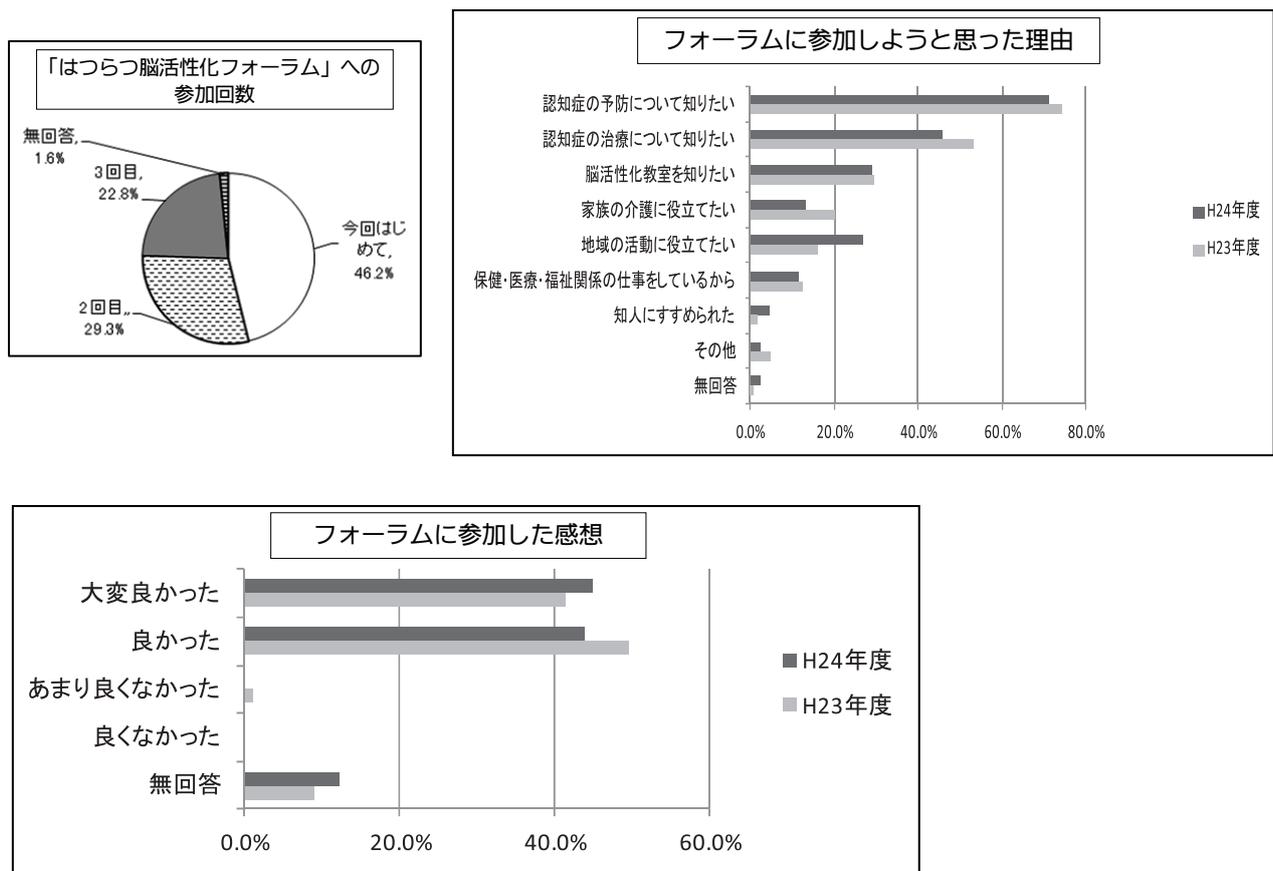
- | | |
|----------------------|---------------|
| ・サポーター養成講座 | 内容の検討とプログラム作成 |
| ・サポーターレベルアップ講座 | 内容の検討とプログラム作成 |
| ・サポーター地域教室運営レベルアップ講座 | 内容の検討 |
| ・脳活性化地域教室 | 内容の検討とプログラム作成 |

◎講座講師

- ・サポーター養成講座
- ・サポーターレベルアップ講座
- ・サポーター地域教室運営レベルアップ講座
- ・地域健康講座 2 回

結 果：アンケート回収数 184 回収率 61.3%

- ・参加者数は約 280 人で、当日小雨であったせいかな年の 500 人と比較すると減少している。
- ・70 歳代の参加者が 46.2%で一番多く、ついで 60 歳代 18.5%であった。昨年と比較して、60 歳代が 9%減で、70 歳代が 9%増である。
- ・フォーラムを知ったきっかけは、区広報紙が 45.1%、次いでチラシが 39.7%である。
- ・平成 24 年度のはつらつ脳活性化教室のサポーターと教室参加者を募った。教室希望者は 15 名であったが、サポーター養成講座の希望者は 7 名であった。昨年よりフォーラムの参加者は減っているが、サポーター養成講座希望者は 4 名増えている。
- ・フォーラムの参加理由や感想は次のとおり。(複数回答可)



考 察：

- ・参加理由から、認知症予防についての知識、情報が欲しいというニーズが伺えた。
- ・地域活動に役立てたいが昨年より増加したことと、内容についての評価が高かったことを合わせて、区民が認知症について理解するとともに、認知症予防のための活動（はつらつ脳活性化プロジェクト事業）を地域で実施する必要性を意識できたと考える。今後も継続的な情報発信が必要である。
- ・サポーターは 70 歳未満としているため、フォーラム参加者からのサポーターの募集には限界があると考えられるが、はつらつ脳活性化プロジェクト事業を広く周知でき、その波及効果は期待できる。
- ・昨年より参加者が減少したことについて、今後も検討していく必要がある。その際、初めて参加する者と、継続して参加している者の違いを意識しながら検討していく必要がある。